

米国の姉妹校に英語で 学校の様子を説明しよう

対象：中1 外国語

ツール・機能：ドリル学習機能

分類：知識・理解

ICT活用のねらい

- ▶ タブレットドリルを活用して、知識の習得を目指す。

CAN-DOリスト活用のねらい

- ▶ 教員と生徒が、身につけるべき英語能力が何であるかを共有し、授業における言語活動を行うことを目指す。

学習の流れ

米国の姉妹校に英語で学校の様子を説明しよう 10時間（本時2/10）

＜本時の目標＞

アメリカの姉妹校に、学校の様子を伝えるために、実況レポートをすることができる

導入	展開	まとめ
①あいさつ ②電子黒板に提示された静止画について、英語で説明する。	③動画を見て、形に気づく。 ペアでさらに練習する。 ④個別に教師のチェックを受ける。 ⑤チェックが終わった生徒は 1人1台端末を活用して練習問題を解く。 ⑥写真や動画を示し、文を書く。	⑦学習計画表に振り返りを記入する。

活用ポイント
【個別最適化の学び】

ここがポイント！

- ①学校の先生が、何かをしている動画を視聴する。
- ②英語で答える。
- ③動画であることから、現在形で表現することは不自然であることに気付く。

ヒントになる動画を電子黒板に提示することで、生徒の思考を深めます。



ここがポイント！

⑤チェックが終わった生徒は1人1台端末を活用して練習問題を解く。
【タブレットドリル】

文構造のポイントをどの程度理解しているのか、生徒一人一人が発表し、中間評価を実施します。



ドリル教材の活用で、個別最適な学びを行うことが可能です。
(10分間程度で実施可能)



ここがポイント！

⑤チェックが終わった生徒は1人1台端末を活用して練習問題を解く。
【タブレットドリル】

ドリル教材を活用することで、生徒1人1人が、異なる問題に挑戦します。

教員は、生徒がどの問題を解いているのか確認します。つまづいている生徒には、個別にフィードバックを行うことができるので、生徒の理解が深まります。



ここがポイント！

⑦学習計画表に振り返りを記入する。

タブレットドリルの問題を確認することで、本時のポイントを確認しながら英作文することができます。

文構造を理解することができたか、主体的に学習に取り組むことができたかを確認しながら本時の振り返りを行います。

